

障害児を持つ親のための企業見学会

バーニーズ見学ツアー！

将来のわが子らを
案じて…

案じて…

7月21日、神奈川県鎌倉市にあるバーニーズへ、障害のある子どもを持つ父親15名が集い、マイクロバスを貸し切つて、就労施設見学ツアーを行いました。

バーニーズは弁当・惣菜・サンドイッチの販売店として運営。グループ企業として、障害者雇用のため、就労継続支援A型事業所を4年前に設立。



から支援という範疇で雇用を考えていない」という言葉がとても印象的でした。

また「今では110名の従業員が雇用しているが、そのうち障害のある方は55名であり、半分が障害者就労として雇用している。今では障害者の方々が働いてくれないければ、企業として成り立たない。それに障害者の人たちが『人材』として必要としている」と言われていました。

士の「謎」となっている、受け入れたことが結果的に業績を伸ばしていった」と言われてました。

他には、実際に勤めている障害のある方のお話を聞きました。「一番印象に残った言葉は『この会社に残めて本当に楽しいです。仕事が楽しくて仕方ありません。感謝しています』という言葉でした。

「自分の子どもが自分亡き後、このように生きてくれたら」と、参加者も勇気を頂き、勉強になりました。やはりみんな同じ場所、同じ話を聞き、同じ意思を持ち行動すること、とても大切であると感じた見学会でした。



今では社員110名のうち半数の55名を障害者として雇用。その土台において、企業や学校などにお弁当を製造・配達しています。

1階の調理場で実際に就労の場を見学したあと、高橋社長から雇用について参加者と懇談しました。また懇談には、11年前に始めてバーニーズさんが障害者として雇用した2名の方も同席されました。

高橋社長が言われた「福祉

「当初は地域の施設からお願いをされて受け入れた。また初めの頃はどいう雇用して良いのかなど悩んだこともあった。しかしいつの間にか『その障害者の人たちのために』が、会社としての業務改善や質の向上、そして社員同



発達障害の支援を考える 議員連盟の会合に参加



5月8日、衆議院議員第二会館で行われた、発達障害の支援を考える議員連盟の会合に参加しました。

この議員連盟は超党派で結成されており、会長は自民党の尾辻秀久議員、会長代理は野田聖子議員などで結成されている連盟で、現在国会議員が17名参加している議員連盟の中でも大きな支援組織であり、国を挙げて発達障害のある人々を支援しようとして活動しています。

輝-HIKARI-グループ クレイソープ・水遊び！



8月30日は、埼玉県障害者交流センターにて当団体が運営するデイサービス「輝・HIKARI」に通う子どもたちと、クレイソープ水遊びイベントを行いました。

このイベントには、株式会社ラッシュジャパン様にもご協力を頂き、LUSH製品の洗剤レンジャーをご提供頂きました。

洗剤レンジャーは水に溶かしてかき混ぜると、たくさん泡と素敵な香りが出てくるクレイソープ。

みんな泡まみれのプールに大興奮！泡を掛け合ったりして遊びました。

最後はみんな綺麗になつて、そして洗剤レンジャーの良い香りを漂わせて帰りました。

夏休み最後の楽しい



LUSH FRESH HANDMADE COSMETICS



思い出となった素晴らしいイベントになりました。

この企画に協力して頂き、洗剤レンジャーをご提供頂きました、株式会社ラッシュジャパンさまには御礼申し上げます。

会合では、厚生労働省と文部科学省が平成26年度の発達障害者支援施策関係予算について報告をされました。

また、強度行動障害の理解と対応についてということ、で、独立行政法人のぞみの園からの発表と報告もありました。

他には一般社団法人日本自閉症協会からは「高齢期の発達障害の人々への支援について」として支援の要望など行いました。

当団体の支援活動についても役立てて、相談や悩みを持つオヤジたちに伝えられるようにしていきたいと思っています。

障がい者が自立すれば、

みんなが元気になる

片岡市長も、父子で訪問したことをとても喜んでくれました。

何故にさいたまの団体のおやじりんくが岡山県総社市に向かったのか？

総社市は、この片岡市長が3年前に掲げた「障がい者千人雇用」に対し、現在では市が「丸」となつて取り組んでいます。総社市の人口は約6万8千人。障害者「知的、身体、精神」は3152人居て、そのうち18歳から60歳の人は12000人。ただその中で就労している人は僅か180人でした。市長自らこのことに疑問を持ち「あとこの10200人はどこにいるのか？」と、調査を開始した



**総社市の障がい者
千人雇用を応援します**



**JCTテレワーカー・
ネットワークを訪問**

JCTテレワーク・カーズネットワークは、知的精神・身体に障害のある方など、障害があることで、通勤が困難なひとたちに向けて、ICTを活用し、在宅でも仕事ができる仕組み（テレワークスタイル）をつくりあげ、現在では100名ほどの会員が、プログラム開発・ホームページ制作点

ところ、在宅でひっそりと暮らしている。そこで市長は「その残り1000人の障害者の人たちを社会に呼び込んで働いてもらおう、参加してもらおう」と決意し「障がい者千人雇用」を打ち出しました。当初は様々な関係施設や地元地域などで反発もあったそうです。でも、この取り組みを理解してもらおうと懸命に訴え、熱い思を持ち続けたところ、現在では3年間で14の事業所等立ち上げ、73人の就労が進んでおります。昨年は、障害者を含む39世帯が生活保護から脱却し、自立の道が拓けています。トップの意識改革によって、その地域は大きく変わるということが、実際に訪問して懇談して実感しました。



しました。

ICTを活用したその仕組みづくりは、徳島の鳴門という場でありながらも、都心に勝るとも劣らない勢いを感じました。

字名刺の制作などを企業から請け負い、その仕事を振り分けて通勤困難者の方に対して仕事を発注して就労を支援します。

また、車椅子の方と知的障害者の方が1組となり、車椅子障害の方が運転をして近くまで行き、知的障害の方が残りは歩いてポスティングを行うという、障害のある者同士が、お互いの困難を助け合うことによって1つの仕事をこなす事を行っています。

絵画教室開催中



埼玉県内2カ所で、一般社団法人からふると連携し、毎月第二土曜日・第四土曜日の月に2回、発達障害児の文化的交流を求める絵画教室を開催しています。

この絵画教室では、創作活動・絵画などを行い、言葉によるコミュニケーションが困難な児童たちに、自分の想いや感じた事を絵で表現してもらおうという取り組みで教室を開催しています。



さいたま市
ひびきもり相談センター
視察
親だからこそ

できることがある

6月9日、さいたま市中央区にある「こころの健康センター」に訪問。山本博司参議院議員、井上伸一さいたま市議会議員、NPO法人埼玉けやきの会家族会の田口ゆりえ代表理事と共にお伺いして「ひきこもりへの支援」について確認しました。こころの健康センターは、その名称どおり、心に病いを抱えている方への相談やアドバイスなどを行っている支援機関。

今回は同センターが行って



いる、ひきこもりに対する支援担当者から、その活動内容と状況、そして支援方法などについてお聞きしました。